

ジュラシック・パークの世界

大自然の山々から今にも恐竜が出てきそうな、太古の姿そのままに残されたロケーションに目が釘付けになった。オアフ島の北東部の海岸にかけて深く切り立った山脈は、まるで屏風のように連なりどこまでも続いていた。この地域の年間降雨日数はギネスブックの記録に載るほど多く、一年の半分以上は雨の日が続く。特にカウアイ島のワイアレア山では350日を記録。年間降水量も11,200ミリ。日本の平均降水量が1,800ミリだから6倍以上になる。



そのため火山岩の山肌の窪みには緑が張り付き、自然の美しさと神秘さが伝わってくる。特にクアロア渓谷は見事な形をしており、恐竜時代に迷い込んだような錯覚を覚える。事実、ここは映画「ジュラシック・パーク」のロケ地になったとか。恐竜・ティラノサウルスが山影から急に出てきても、知恵の回るヴェロキラプトルの脅威もすぐ近くで隠れているように思えてくる。

マイケル・クライトンによる小説は、スティーヴン・スピルバーグにより1993年に映画化され、アメリカをはじめ世界各国で大ヒットとして以来、恐竜を扱った映画の代名詞ともいえる存在になっている。しかしハワイには恐竜どころか、蛇がないという。もし蛇が発見されれば大ニュースになるとか。そしてあれだけ雨が降っても川が見つからない。その答えは火山層による赤土で蛇は生きていけない。そして溶岩層では水はすぐに地下に吸収されるとか。不思議なハワイの物語である。

撮影 2010年冬

